

市民参加行事と「こども地盤学会」

桜井 幹郎 (さくらい みきお)

北陸基礎開発㈱ 代表取締役社長

1. はじめに

第48回地盤工学研究発表会の市民参加行事は、3つの行事を行った。富山での発表会開催が初めてということもあり、広く地盤工学会の活動を知ってもらおうと、北陸における地盤工学会の活動紹介のほか、防災体験学習やこども地盤学会を企画した。

今回の目玉は「こども地盤学会」である。こども地盤学会の様子は詳しく記したいと思う。

大会開催期間中の3日間、3つの会場にて延べ1000人以上参加者を迎え好評を得た。ひとえに準備に奔走したスタッフのおかげである。

2. 北陸地方に関連する地盤工学会の活動報告

地盤工学会の活動を市民に分かりやすく伝える目的で、富山市民プラザアトリウムにて大会開催期間の3日間パネル展示を行った。展示内容は、「農業用水路を利用した大規模客土（流水客土）技術の紹介」、「地形・地盤区分を考慮した液状化危険度マップの紹介」及び「新潟の地盤の成り立ちと詳細地盤図紹介」である。同時に、ほくりく地盤情報システムのデモも行った。各テーマとも、昼の休憩時間を利用しミニ講演を実施した。

このなかでも、「液状化危険度マップの紹介」は大きな反響を呼んだ。研究発表会開催中（23日）に行った国土交通省・地盤工学会北陸支部の記者発表には多数のマスコミが集まり、翌日の新聞に液状化危険度マップの概要が報道された。

3. 防災体験学習

地震、豪雨や土石流災害の恐ろしさを認識し、今後の防災・減災対策に役立ててもらおうと、国土交通省北陸地方整備局のご協力のもと防災体験学習を企画した。内容は、地震体験、豪雨体験、土石流体験（3Dシアター）及び土石流模型実験である。

富山県民会館前の駐車場で開催のため、参加者、スタッフともうだるような暑さの中、また激しい雨の中の体験学習であったが、延べ体験者727人も多数の来場者を迎えた。終了後、機材撤収中にNHKのニュースで見たという家族づれ2組が訪れたが、残念そうに帰って行くのをこちらも残念な思いで見送らざるを得なかったことが悔やまれる。

4. こども地盤学会

こども地盤学会は、こども達の身の回りに存在する地

盤に関わる現象や疑問を、こども達自身の目線で考え、こどもたち自身の言葉で答えを発表する場として企画した。富山県内5校の小学校が参加した。

4.1 発表テーマと参加校

発表のテーマは、参加校の地域の特色を表したもの、又は、発表者が夏休みの課題として取り組んできたものである。以下に、発表テーマと参加校を示す。

発表1 「わたしたちのくらしを守る立山砂防」

立山町立 立山小学校

発表2 「液状化現象を見てみよう！」

富山大学人間発達科学部附属小学校

発表3 「秘密を探れ！ 石っ子地すべり調査隊」

小矢部市立 石動小学校

発表4 「ぼくの見つけた化石」

魚津市立 本江小学校

発表5 「上青（じょうせい）の宝！ 杉沢の沢スギ」

入善町立 上青小学校

司会：林 正之（富山県土木部）

コーディネーター：竹内 章（富山大学大学院教授）

4.2 発表の様子

こども地盤学会は、立山小学校代表による開会宣言を皮切りに、5編の発表、総評、表彰式、石動小学校代表による閉会のことばで終了した。途中、パワーポイントの動画が動かないトラブルがあったが、動揺することなく無事に発表を終えた。

こどもの視点を強く感じたのは、本江小学校3年小坂君の発表である。「化石を含む地層から海のにおいを感じた」などはこどもならではの、である。

表彰式では、こども達の発表に感激した末岡会長が「どの発表も甲乙つけがたく素晴らしい」とのことで、発表者全員に最優秀賞が贈られることとなった。



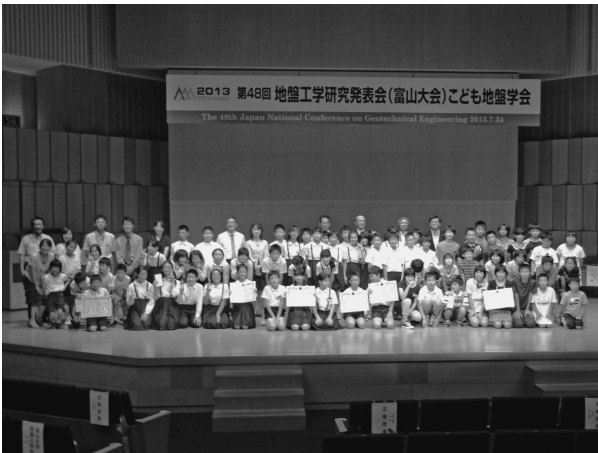
写真—1 発表中の小坂麗央君（本江小学校3年）



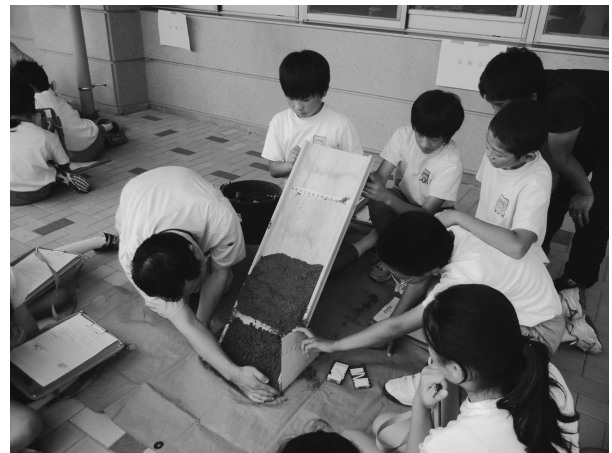
写真一 2 表彰式の様子（上青小学校）



写真一 4 集水井の中を観察する子ども達



写真一 3 参加児童全員での記念撮影



写真一 5 杭の模型実験を行う子ども達

ども地盤学会の様子は、NHKの「ニュース富山人」に取り上げられたほか、地元CATVの取材があった。

発表終了後、発表者を囲み参加児童全員での記念撮影を行った。

4.3 学校での指導

ども地盤学会発表に当たり、現場見学会や学校での講習会などを実施した。私の担当した石動小学校での様子を述べる。

石動小学校では、毎年、小矢部土木事務所主催の子供砂防教室が開催されている。この行事に関連し、子供砂防教室で学んだ地すべり防止施設の効果を理解してもらおうと模型実験を行った。実験装置は集水井と杭の効果が体感できる単純なものであるが、準備には意外と手数がかった。

実験をすることも達が、「実験は楽しい。将来こんな仕事をしてみたい」と言っていたのが印象に残っている。

学校では、発表原稿を作るほかに発表の練習をする必要がある。放課後に発表者と先生が集まり、熱心に練習を続けてきた。指導して下さった先生方に頭が下がる思いである。

4.4 苦労したこと

最初から覚悟はしていたが、参加してくれる学校がなかなか決まらないことに尽きる。ゆとり教育が終わり学

校の裁量で使える総合学習の時間が限られ、参加を前向きに検討してくれる学校は少なかった。また、発表日が一学期終業式と重なったことも一因である。最終的な決め手は、担当者の熱意と地元との関わりである。

4.5 ども達と地盤工学

ども地盤学会で発表したこと、勉強したことを忘れずにいてほしいと願う。素朴に感じた不思議や疑問について、自分たちで調べ、体感し、考え、答えを出せるような大人となってほしい。そして将来、地盤工学を志す人が一人でも育ってくれば素晴らしいことである。

5. おわりに

市民参加行事は、たくさんの方々の協力により大成功に終わりました。国土交通省、富山県、ども地盤学会参加の各市町村教育委員会及び学校の先生方、学校指導のスタッフ派遣、表彰副賞を提供していただきました斜面防災対策技術協会富山県支部・富山県地質調査業協会、何よりも大会運営に尽力されたスタッフのみなさまに深く感謝いたします。

(原稿受理 2013.8.29)